

Sun StorEdge™ 5310 Cluster 設定手順 — はじめにお読みください

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-3086-10
2005 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、Sun Fire、Sun StorEdge、Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および SunTM Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun StorEdge 5310 Cluster Setup Instructions - Read This First Part No: 819-2355-11 Revision A
-----	--



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

Sun StorEdge 5310 Cluster システムの設置	1
格納装置の配置	1
電源ケーブルの接続	2
トレイ ID の設定	2
Sun StorEdge 5310 Cluster とコントローラ格納装置の接続	2
1 台のコントローラ格納装置の接続	3
2 台のコントローラ格納装置の接続	5
コントローラ格納装置と拡張格納装置の接続	9
コントローラ格納装置と 1 台の拡張格納装置のケーブル接続	10
コントローラ格納装置と 2 台の拡張格納装置のケーブル接続	11
コントローラ格納装置と 3 台の拡張格納装置のケーブル接続	12
サーバーの健全性の監視とネットワークケーブルの接続	13
Sun StorEdge 5310 Cluster の銅ケーブルによる Fast Ethernet ネットワークまたは Gigabit Ethernet ネットワークへの接続	13
Sun StorEdge 5310 Cluster の光ケーブルによる Gigabit Ethernet ネットワークへの接続 (オプション)	14
装置の電源投入	14
拡張格納装置の電源投入	15
コントローラ格納装置の電源投入	15
Sun StorEdge 5310 Cluster の電源投入	15
システムの設定と構成	16
IP アドレスの設定	16
クラスタシステムの構成	16
LUN 所有権の割り当て	18
LUN パスの割り当て	18

Sun StorEdge 5310 Cluster システムの設置

このマニュアルでは、Sun StorEdge 5310 Cluster の設定手順について簡単に説明します。詳細は、『Sun StorEdge 5310 NAS Appliance ハードウェアの設置・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください。

注 – この手順書は、『Sun StorEdge 5310 NAS の設定』ポスターの代わりに使用してください。ポスターは、本体 1 台構成のシステムの設定のみを対象としています。



注意 – 静電気のサージは、電気部品の損傷の原因になる可能性があります。このような理由から、適切な梱包およびアース技術に関する注意事項が守られていることが重要です。

格納装置の配置



注意 – ラックにコンポーネントを不規則に取り付けると、不安定で危険な状態になる場合があります。

注 – 装置をラックに設置するには、ラックおよびラックマウントキットに付属の設置手順書に従ってください。

下から上に、次の順番で格納装置を取り付けます。

1. Sun StorEdge 5300 EU 拡張格納装置
2. RAID EU コントローラ格納装置
3. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H2 (シリアル番号の末尾が「-H2」)
シリアル番号は、シャーシの左側のソフトウェアライセンスのシリアル番号ラベルに印字されています。
4. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H1 (シリアル番号の末尾が「-H1」)

注 – 2 台の RAID EU コントローラ格納装置を使用する場合は、最初に 2 台目のコントローラ用の拡張格納装置を取り付けてから、2 台目のコントローラ格納装置を取り付けます。その後、前述の手順 1 ~ 4 に従います。

電源ケーブルの接続

1. キャビネット内の各装置にある両方の電源スイッチをオフにします。
2. 各装置の各電源装置を、キャビネット内の別々の電源に接続します。
3. キャビネットからの主電源ケーブルを、外部の電源に接続します。



注意 – キャビネットには、2 つの別々の電源回路に接続された 2 つの電源が必要です。

注 – このマニュアルで指示があるまで、装置の電源は入れないでください。

トレイ ID の設定

拡張格納装置およびコントローラ格納装置の背面にあるトレイ ID スイッチを使用して、各トレイ ID を 00 ～ 76 の範囲の一意の番号に設定します。

Sun StorEdge 5310 Cluster とコントローラ格納装置の接続

この節では、Sun StorEdge 5310 Cluster を 1 台または 2 台のコントローラ格納装置に接続する方法について説明します。

注 – Sun StorEdge 5310 Cluster サーバーのシリアル番号は、シャーシの左側のソフトウェアライセンスのシリアル番号ラベルに印字されています。

Sun StorEdge 5310 Cluster を、1 台のコントローラ格納装置につき 1 組の光ファイバケーブルでそれぞれ接続します。コントローラ格納装置のホストポートには SFP 光トランシーバが取り付けられており、ここに光ファイバケーブルの LC コネクタを接続します。ポートの位置については、図 1 を参照してください。

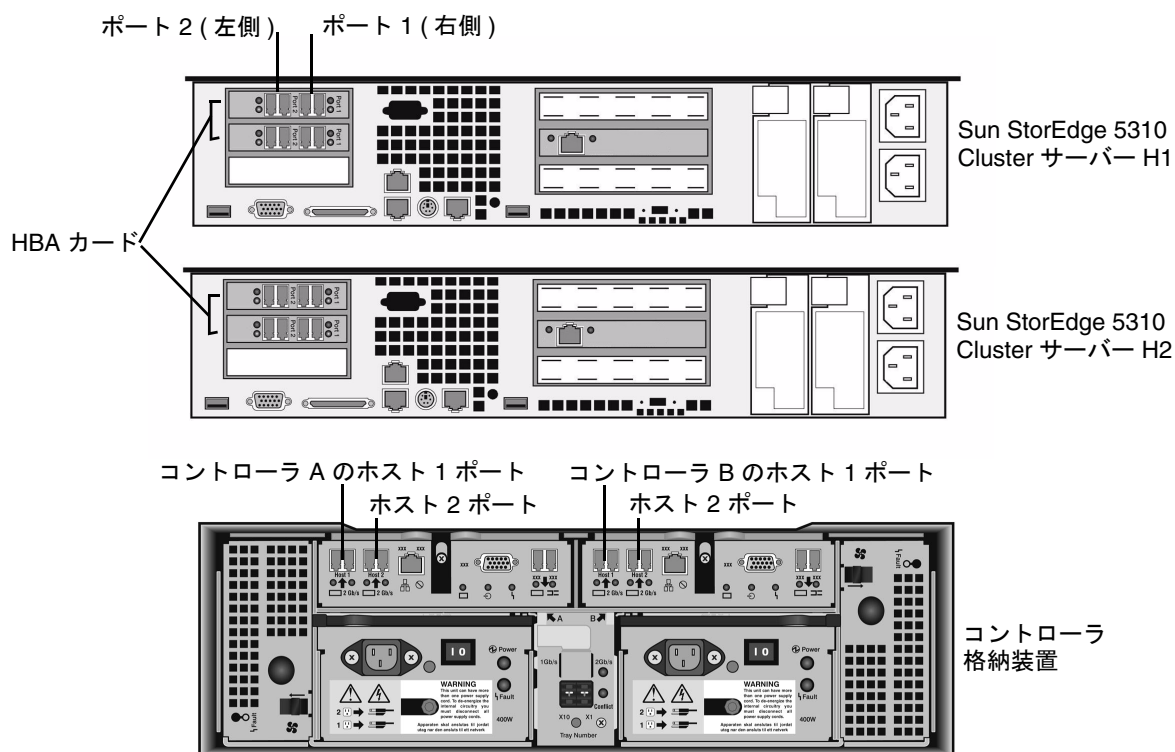


図 1 Sun StorEdge 5310 Cluster の HBA カードおよびコントローラ格納装置のポート

1 台のコントローラ格納装置の接続

1 台のコントローラ格納装置を、各サーバーに 2 枚のデュアルポート HBA カードが装備された Sun StorEdge 5310 Cluster に接続する場合は、この節で説明する手順を実行します。図 2 も参照してください。

1. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H1 の 1 枚目の HBA カードの HBA ポート 2 と、コントローラ A のホスト 1 ポートを接続します。
2. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H1 の 2 枚目の HBA カードの HBA ポート 2 と、コントローラ B のホスト 1 ポートを接続します。
3. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H2 の 1 枚目の HBA カードの HBA ポート 1 と、コントローラ A のホスト 2 ポートを接続します。
4. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H2 の 2 枚目の HBA カードの HBA ポート 1 と、コントローラ B のホスト 2 ポートを接続します。

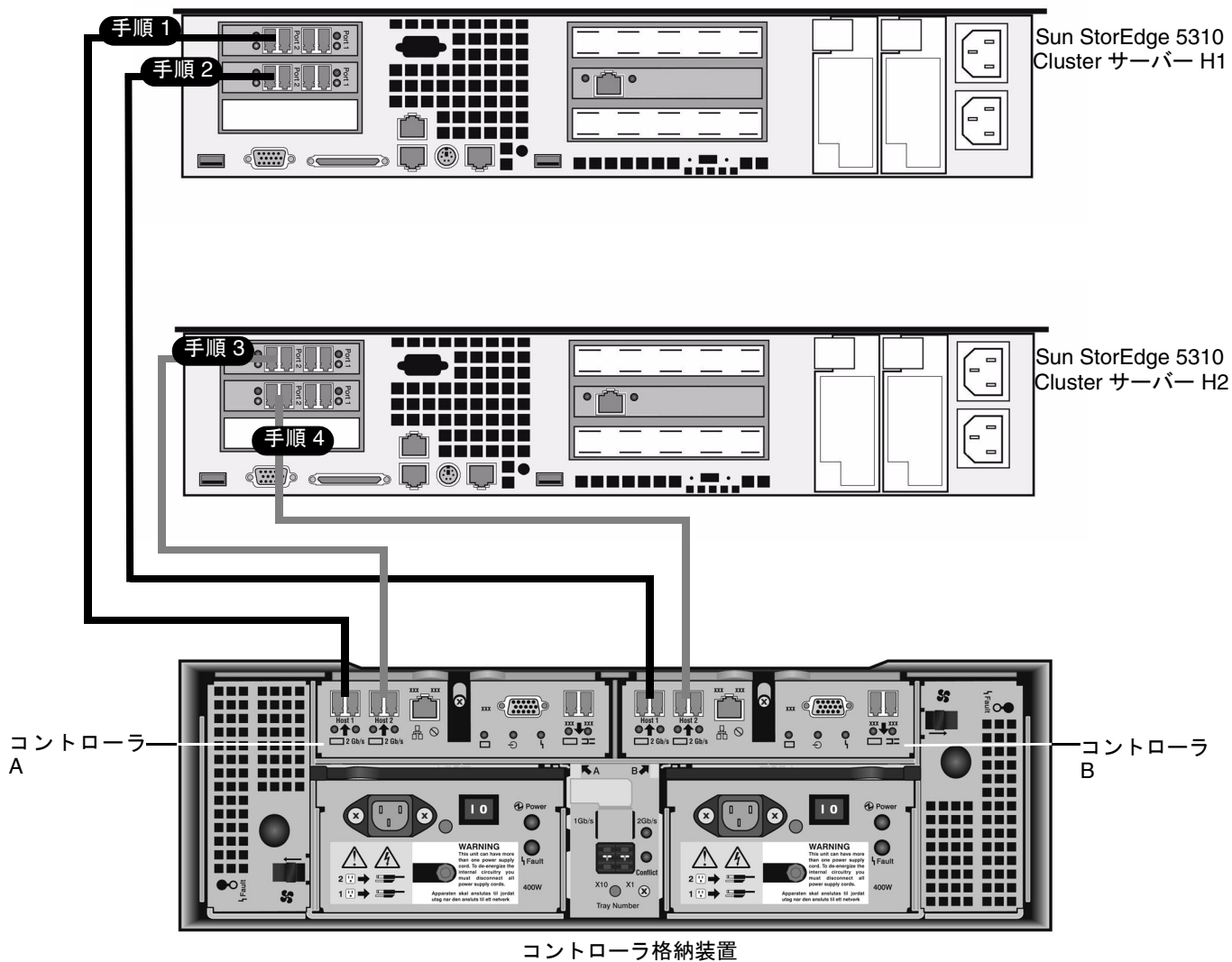


図 2 HBA カードと 1 台のコントローラ格納装置の接続

2 台のコントローラ格納装置の接続

2 台のコントローラ格納装置を Sun StorEdge 5310 Cluster に接続する場合は、この節で説明する手順を実行します。図 3 および図 4 も参照してください。



注意 – 一方のアレイにファイバチャネルディスクドライブを取り付け (コントローラ格納装置および拡張格納装置内)、もう一方のアレイに SATA ディスクドライブを取り付ける (拡張格納装置内のみ) ことができます。ただし、1 台のコントローラ格納装置に、EU F (ファイバチャネル) と EU S (SATA) 拡張格納装置を混在させて接続することはできません。

1. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H1 の 1 枚目の HBA カードの HBA ポート 2 と、1 台目のコントローラ格納装置のコントローラ A のホスト 1 ポートを接続します。
2. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H1 の 1 枚目の HBA カードの HBA ポート 1 と、2 台目のコントローラ格納装置のコントローラ B のホスト 1 ポートを接続します。
3. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H1 の 2 枚目の HBA カードの HBA ポート 2 と、1 台目のコントローラ格納装置のコントローラ B のホスト 1 ポートを接続します。
4. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H1 の 2 枚目の HBA カードの HBA ポート 1 と、2 台目のコントローラ格納装置のコントローラ A のホスト 1 ポートを接続します。

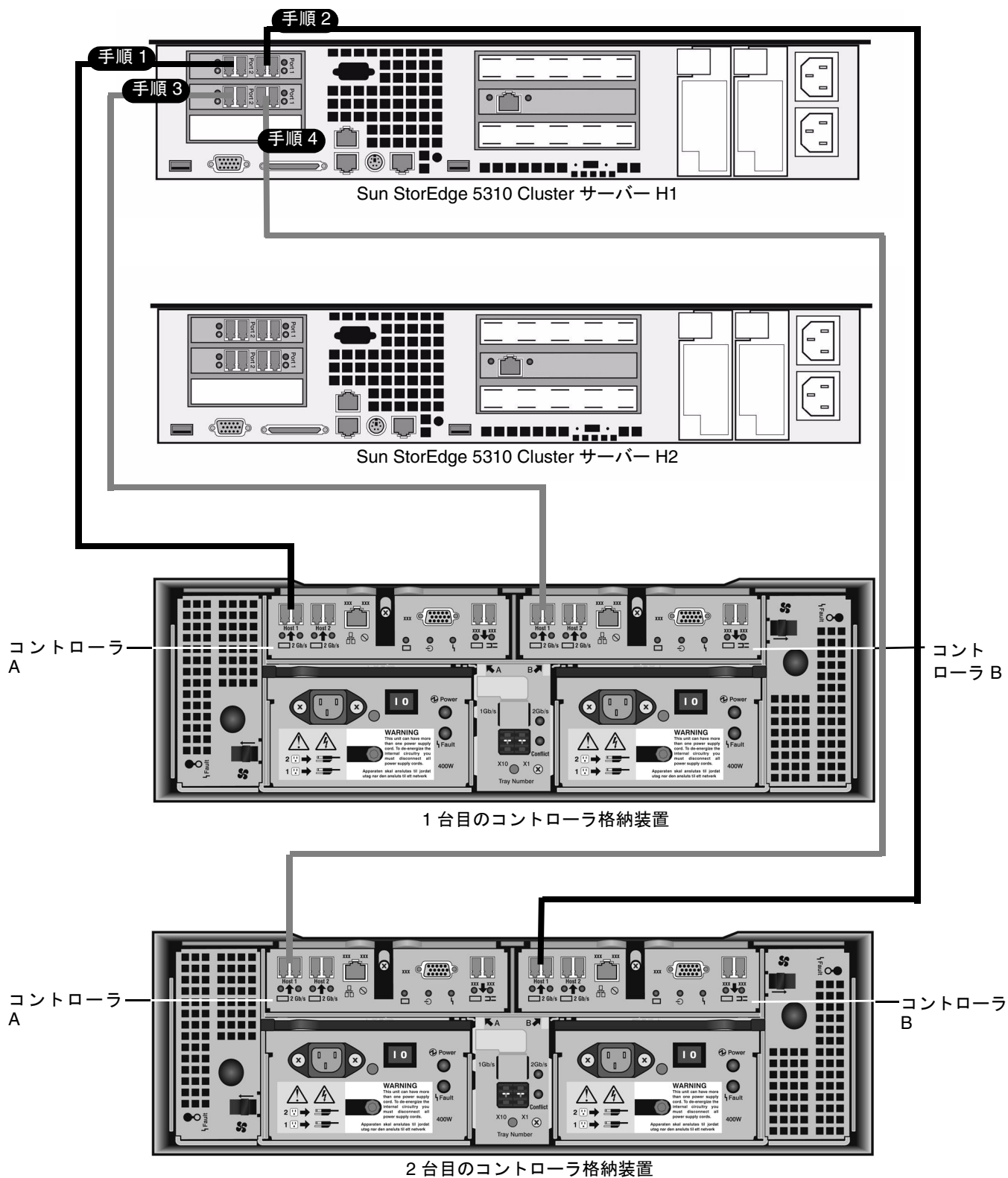
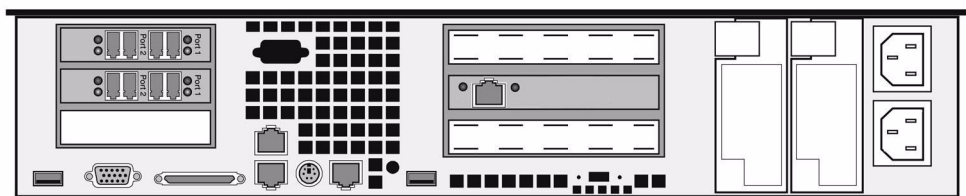
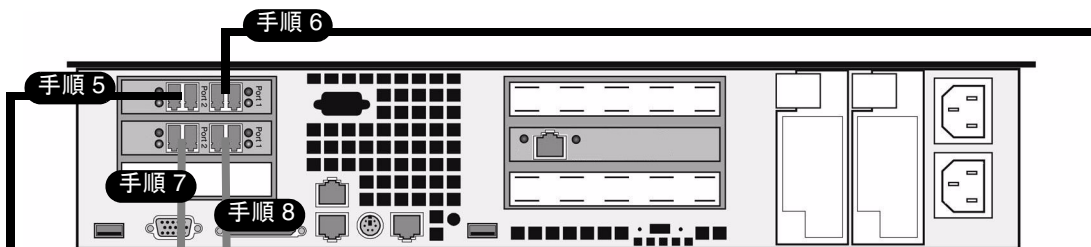


図 3 2 台のコントローラ格納装置に Sun StorEdge 5310 Cluster を接続する手順 1 ～ 4

5. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H2 の 1 枚目の HBA カードの HBA ポート 2 と、1 台目のコントローラ格納装置のコントローラ A のホスト 2 ポートを接続します。
6. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H2 の 1 枚目の HBA カードの HBA ポート 1 と、2 台目のコントローラ格納装置のコントローラ B のホスト 2 ポートを接続します。
7. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H2 の 2 枚目の HBA カードの HBA ポート 2 と、1 台目のコントローラ格納装置のコントローラ B のホスト 2 ポートを接続します。
8. Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H2 の 2 枚目の HBA カードの HBA ポート 1 と、2 台目のコントローラ格納装置のコントローラ A のホスト 2 ポートを接続します。

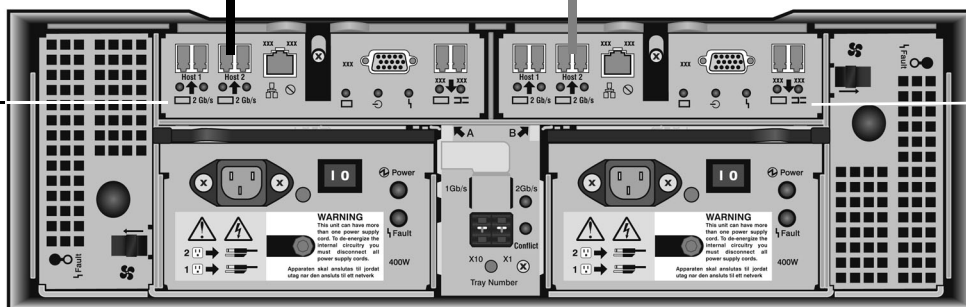


Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H1



Sun StorEdge 5310 Cluster サーバー H2

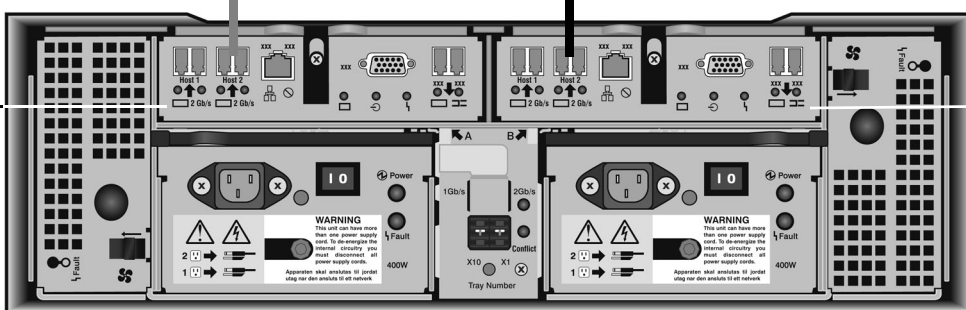
コントローラ
A



1 台目のコントローラ格納装置

コント
ローラ B

コントローラ
A



2 台目のコントローラ格納装置

コントローラ
B

図 4 2 台のコントローラ格納装置に Sun StorEdge 5310 Cluster を接続する手順 5 ～ 8

コントローラ格納装置と拡張格納装置の接続

各コントローラ格納装置は、コントローラ A とコントローラ B の拡張ポートを使用して、拡張格納装置の背面にある FC-AL ポートに接続します (図 5)。

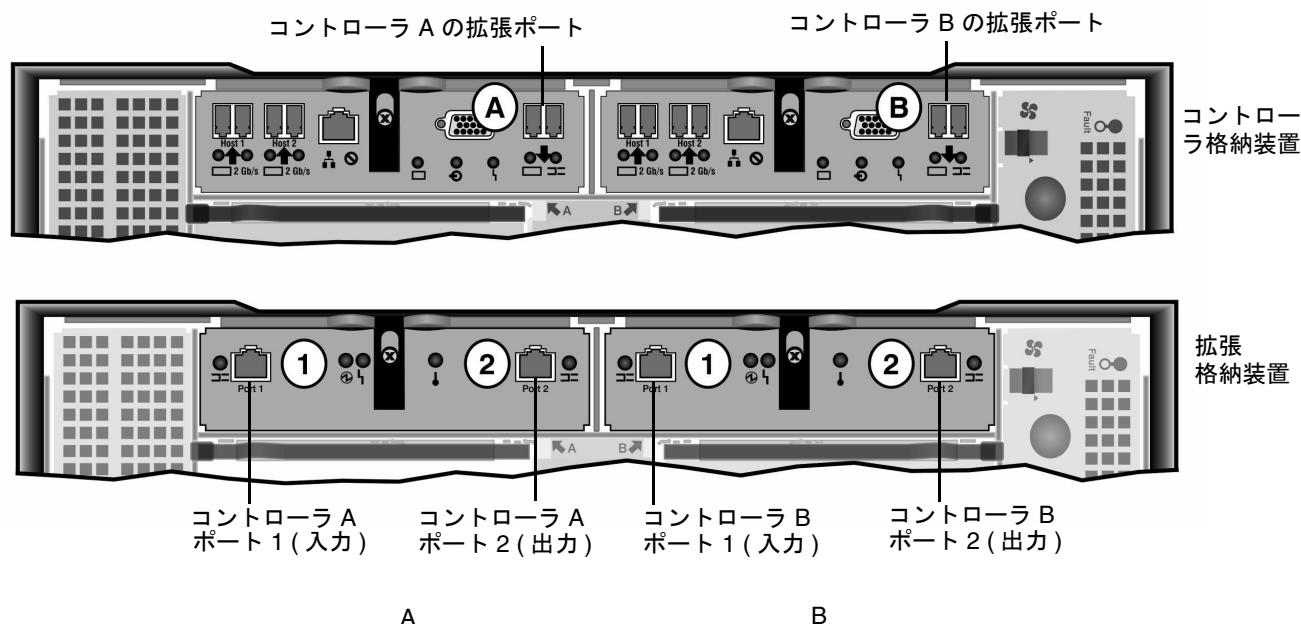


図 5 コントローラ格納装置と拡張格納装置のポート

コントローラ格納装置と拡張格納装置の接続には、1 組のアクティブ銅ケーブルを使用します。これは、コネクタの末端にトランシーバ電子部品が組み込まれた銅ケーブルです。これらのケーブルをコントローラ格納装置と拡張格納装置の SFP ポートに直接差し込みます。

注 – この節では、コントローラ格納装置と拡張格納装置を接続する手順について説明します。この手順は、1 台のコントローラ格納装置にも、2 台のコントローラ格納装置にも適用されます。2 台のコントローラ格納装置を使用する場合は、同じ手順で各コントローラ格納装置に拡張格納装置を接続します。



注意 – EU S 拡張格納装置と使用するコントローラ格納装置には、ファイバチャネルディスクドライブを取り付けてはいけません。1 台のコントローラ格納装置に、EU F と EU S 拡張格納装置を混在させて接続しないでください。

注 – 1 台のコントローラ格納装置には、EU F 拡張格納装置であれば 7 台まで、EU S 拡張格納装置であれば 8 台まで接続できます。

接続する拡張格納装置の数によって、ケーブル配線が異なります。

- 拡張格納装置が 1 台の場合は、10 ページの「コントローラ格納装置と 1 台の拡張格納装置のケーブル接続」を参照してください。
- 拡張格納装置が 2 台の場合は、11 ページの「コントローラ格納装置と 2 台の拡張格納装置のケーブル接続」を参照してください。
- 拡張格納装置が 3 台の場合は、12 ページの「コントローラ格納装置と 3 台の拡張格納装置のケーブル接続」を参照してください。

- 拡張格納装置が 4 ～ 7 台の場合は、『Sun StorEdge 5310 NAS Appliance ハードウェアの設置・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください。

コントローラ格納装置と 1 台の拡張格納装置のケーブル接続

コントローラ格納装置と 1 台の拡張格納装置を接続するには、2 m のアクティブ銅ケーブルが 2 本必要です。図 6 を参照してください。

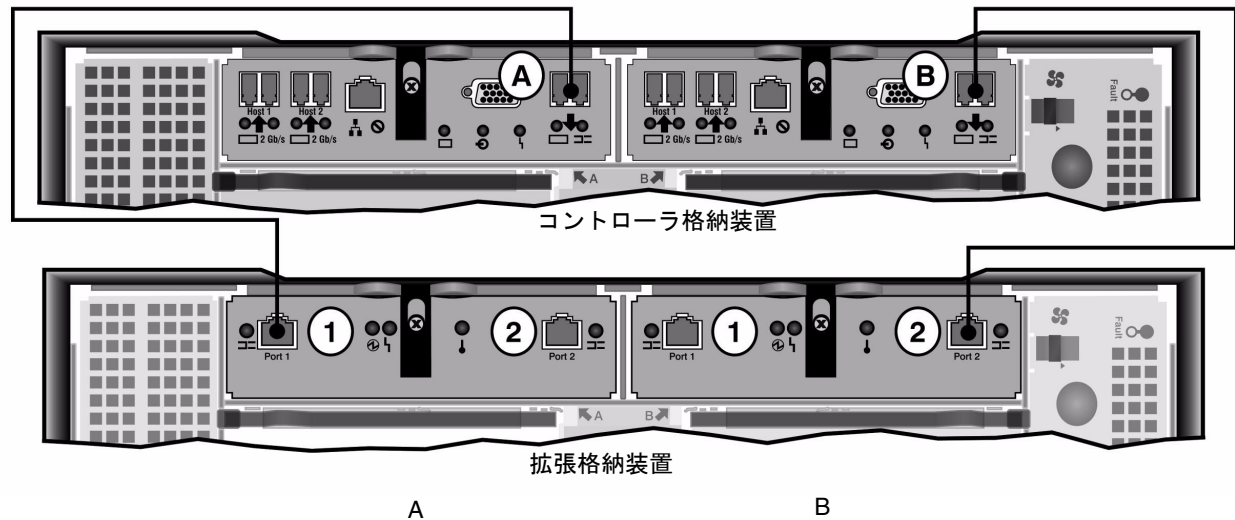


図 6 コントローラ格納装置と 1 台の拡張格納装置のケーブル相互接続

1. コントローラ格納装置の A 側の拡張ポートと拡張格納装置の A 側のポート 1 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。
2. コントローラ格納装置の B 側の拡張ポートと拡張格納装置の B 側のポート 2 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。

コントローラ格納装置と 2 台の拡張格納装置のケーブル接続

コントローラ格納装置と 2 台の拡張格納装置を接続するには、2 m のアクティブ銅ケーブルが 4 本必要です。図 7 を参照してください。

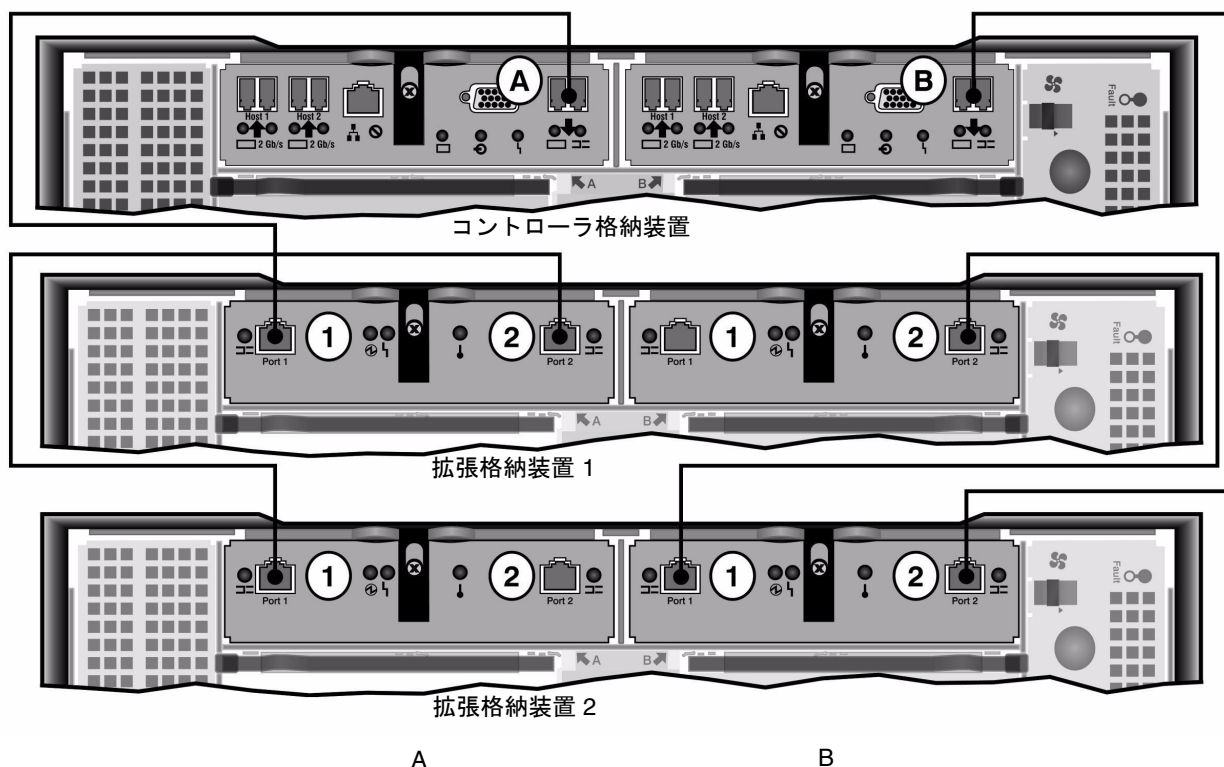


図 7 コントローラ格納装置と 2 台の拡張格納装置のケーブル相互接続

1. コントローラ格納装置の A 側の拡張ポートと拡張格納装置 1 の A 側のポート 1 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。
2. 拡張格納装置 1 の A 側のポート 2 と拡張格納装置 2 の A 側のポート 1 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。
3. コントローラ格納装置の B 側の拡張ポートと拡張格納装置 2 の B 側のポート 2 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。
4. 拡張格納装置 2 の B 側のポート 1 と拡張格納装置 1 の B 側のポート 2 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。

コントローラ格納装置と 3 台の拡張格納装置のケーブル接続

コントローラ格納装置と 3 台の拡張格納装置を接続するには、2 m のアクティブ銅ケーブルが 6 本必要です。図 8 を参照してください。

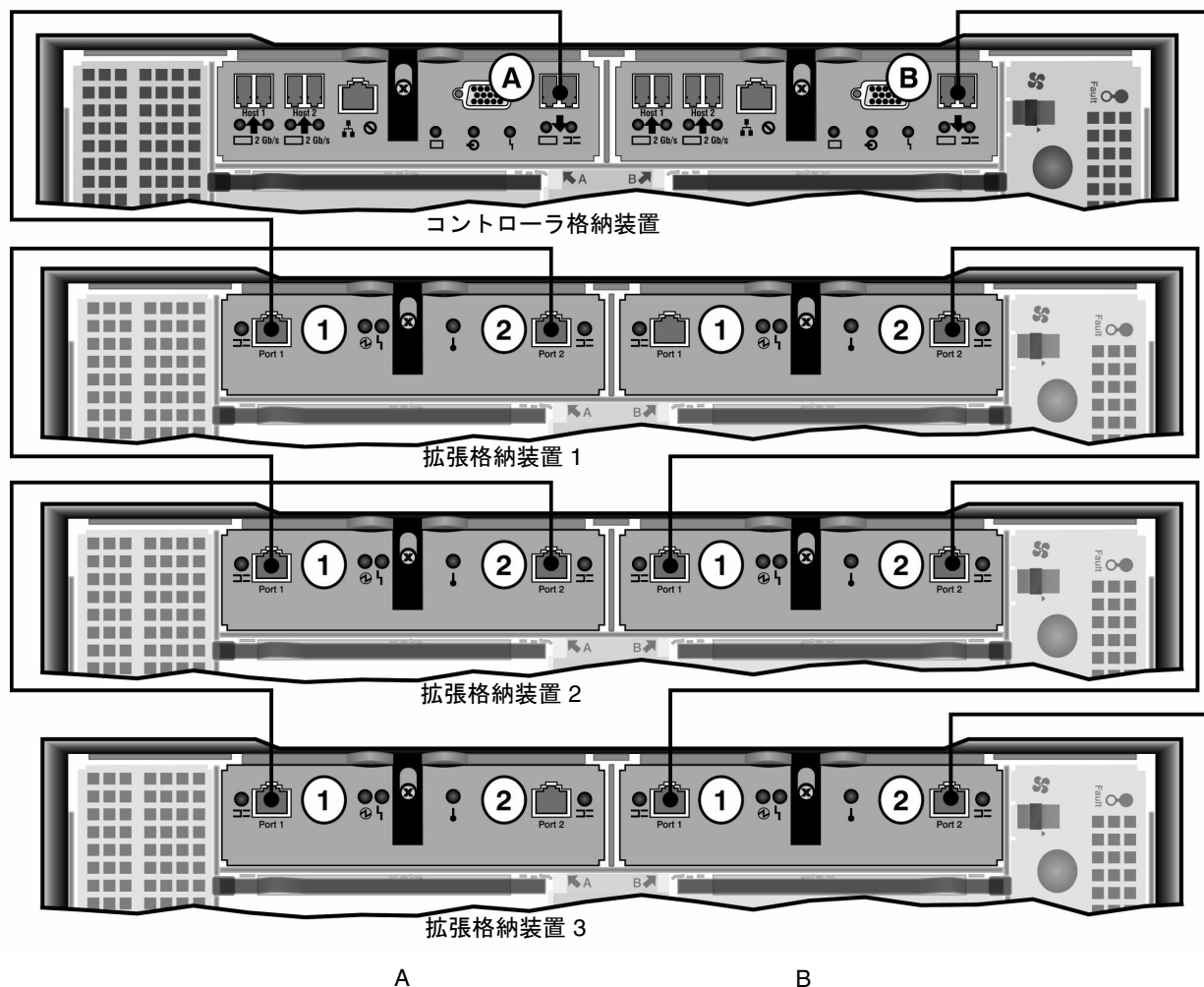


図 8 コントローラ格納装置と 3 台の拡張格納装置のケーブル相互接続



注意 – 1 台のコントローラ格納装置に、EU F (ファイバチャネル) と EU S (SATA) 拡張格納装置を混在させて接続しないでください。

1. コントローラ格納装置の A 側の拡張ポートと拡張格納装置 1 の A 側のポート 1 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。
2. 拡張格納装置 1 の A 側のポート 2 と拡張格納装置 2 の A 側のポート 1 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。
3. 拡張格納装置 2 の A 側のポート 2 と拡張格納装置 3 の A 側のポート 1 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。
4. コントローラ格納装置の B 側の拡張ポートと拡張格納装置 3 の B 側のポート 2 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。

5. 拡張格納装置 3 の B 側のポート 1 と拡張格納装置 2 の B 側のポート 2 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。
6. 拡張格納装置 2 の B 側のポート 1 と拡張格納装置 1 の B 側のポート 2 を、1 本のアクティブ銅ケーブルで接続します。

ケーブル接続の詳細は、『Sun StorEdge 5310 NAS Appliance ハードウェアの設置・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください。

サーバーの健全性の監視とネットワークケーブルの接続

Sun StorEdge 5310 Cluster システム内の各サーバーは、専用の Ethernet 接続を介してパートナーと通信し、定期的に「健全性検査」を行います。

Sun StorEdge 5310 Cluster の銅ケーブルによる Fast Ethernet ネットワークまたは Gigabit Ethernet ネットワークへの接続

使用しているシステムで Fast Ethernet ネットワークまたは Gigabit ネットワークがサポートされている場合は、図 9 でネットワークインタフェースカード (NIC) ポートの位置を確認してください。このシステムでは、NIC ポート emc1 が自動検知 100/1000Base-T Ethernet (銅) として構成されています。

1. ローカルエリアネットワーク (LAN) と各 Sun StorEdge 5310 Cluster サーバーの背面にある NIC ポート emc1 コネクタを、RJ-45 シールドなし、より対線ケーブルで接続します。
2. Cat5 Ethernet クロスケーブルを使用して、サーバー H1 のハートビートポート fxp1 をサーバー H2 のハートビートポート fxp1 に接続します。
3. その他のネットワークサービス用に、NIC ポート emc2 を接続できます。

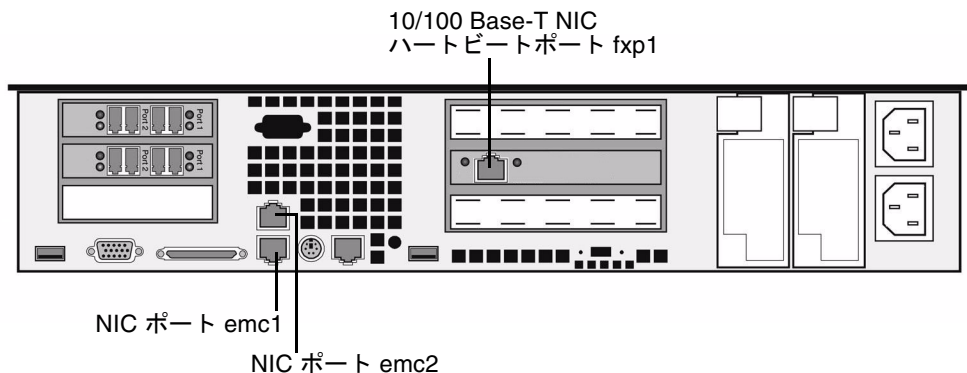


図 9 Fast Ethernet ネットワークのポート

Sun StorEdge 5310 Cluster の光ケーブルによる Gigabit Ethernet ネットワークへの接続 (オプション)

使用しているサーバーに Gigabit Ethernet 光カードが搭載されている場合は、図 10 で NIC ポートおよび Gigabit 光ポートの位置を確認してください。

1. LAN からの LC ケーブルを、各 Sun StorEdge 5310 Cluster サーバーの背面にある Gigabit Ethernet 光コネクタの右側 (ポート emf3) に接続します。
2. Cat5 Ethernet クロスケーブルを使用して、サーバー H1 のハートビートポート emc1 (左下) をサーバー H2 のハートビートポート emc1 に接続します。

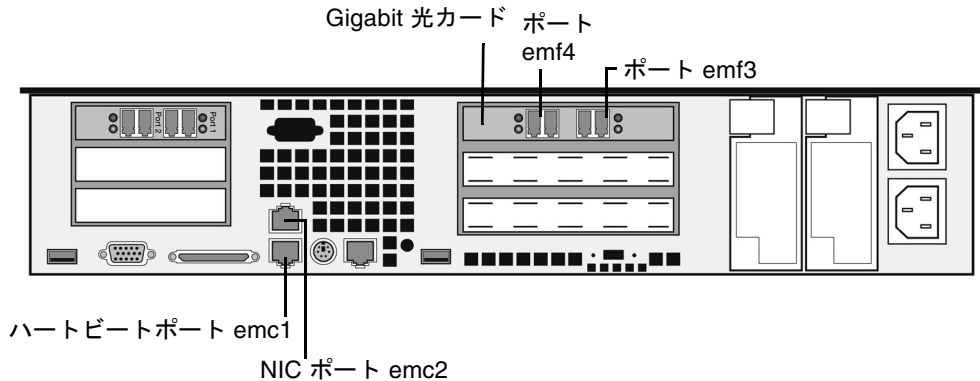


図 10 Gigabit 光ネットワークのポート

装置の電源投入



注意 – Sun StorEdge 5310 Cluster の電源を入れるには、拡張格納装置とコントローラ格納装置の電源が入った状態で、互いが適切に接続され、Sun StorEdge 5310 Cluster とも適切に接続されている必要があります。最初に拡張格納装置の電源を入れてから、コントローラ格納装置と Sun StorEdge 5310 Cluster の電源を入れる必要があります。この電源投入の順序に従わないと、システムの起動が遅くなる可能性があります。

注 – 耐障害性を実現するには、2 つの電源装置を持つ装置は 2 つの異なる AC 回路から電力を得るようにしてください。



注意 – コントローラ格納装置と拡張格納装置の電源を切ったら、5 秒間待ってから電源を入れ直してください。装置の電源を切ってすぐに入れ直すと、予期しない結果が発生する場合があります。

拡張格納装置の電源投入

各拡張格納装置の電源を入れるには、次の手順に従います。

1. Sun StorEdge 5310 Cluster、コントローラ格納装置、および拡張格納装置の間のすべてのケーブルが、適切に接続されていることを確認します。
2. 2 つの電源装置のスイッチをオンにして、各拡張格納装置の電源を入れます。
3. 正面パネルのすべての LED が緑色に点灯し、良好な動作状態を示していることを確認します。
4. 60 秒間待ってからコントローラ格納装置の電源を入れます。

コントローラ格納装置の電源投入

各コントローラ格納装置の電源を入れるには、次の手順に従います。

1. Sun StorEdge 5310 Cluster、コントローラ格納装置、および拡張格納装置の間のすべてのケーブルが、適切に接続されていることを確認します。
2. 2 つの電源装置のスイッチをオンにして、各コントローラ格納装置の電源を入れます。
3. 正面パネルのすべての LED が緑色に点灯し、良好な動作状態を示していることを確認します。

Sun StorEdge 5310 Cluster の電源投入

注 – サーバーの電源投入および構成は、一度に 1 台ずつ実行します。

拡張格納装置、コントローラ格納装置、および Sun StorEdge 5310 Cluster の間のすべてのケーブルがしっかり接続されていること、Sun StorEdge 5310 Cluster がネットワークに接続されていること、およびハートビート Ethernet ケーブルが接続されていることを確認してから、次の手順に従って Sun StorEdge 5310 Cluster の電源を入れます。



注意 – 電源ボタンを押す前に、すべての電源ケーブルを接続する必要があります。

1. サーバー H1 (シリアル番号の末尾が「-H1」) の正面カバーの内側にある正面パネルの電源ボタンを押して、電源を入れます。



注意 – このあとの手順で指示があるまで、サーバー H2 の電源は入れないでください。

2. サーバー H1 の起動が完了したことを確認します。起動が完了すると、LCD に「Quiet」と表示されます。
3. 電源投入処理を完了するには、引き続き次の節の「システムの設定と構成」を実行します。

システムの設定と構成

クラスタシステムを起動して実行するには、IP アドレス、基本構成情報、および LUN 所有権を指定する必要があります。

IP アドレスの設定

ネットワークで DHCP がサポートされている場合、LAN ポートには IP アドレスが自動的に割り当てられます。

1. DHCP を使用できない場合は、サーバー H1 の LCD モジュールを使用して静的 IP アドレスを割り当てます。
 - 「Menu」を選択します。
 - 「A. Network Config」を選択します。
 - 「A. Set Gateway」を選択し、ゲートウェイアドレスを入力します。
 - どちらが第一標準 LAN ポートであるかに応じて「C. Set Port-emc1」または「C. Set Port-emc2」を選択し、プロンプトに従って、IP アドレス、サブネットマスク、およびブロードキャストアドレスを入力します。この IP アドレス情報は、使用しているシステムの第一標準 (ハートビートではない) LAN ポートに割り当てられます。
 - 「Exit」を 2 回選択して、メインメニューに戻ります。



注意 – ハートビートに使用するネットワークポートのプライベート IP アドレスは変更しないでください。

注 – 設定を確認するために、HB ポート (ハートビートポート) にはプライベート IP アドレスが表示され、Port emc1 または Port emc2 (第一標準 LAN ポート) には入力した情報が表示されます。

同様にポート情報を編集して、ほかのポートにアドレスを割り当てることができます。

2. サーバー H1 の LCD メニューの「C. Take All LUNs」を選択します。
3. 「take all LUNs」というプロンプトが表示されたら、上向き矢印を押して「Yes」を選択し、選択ボタン (右向き矢印) を押して LUN の取り込みを開始します。

LCD に「Taking LUNs」と表示されたあとに、「Took n LUNs」というメッセージが表示されます。数秒後に「Network Config」メニューに戻ります。
4. 「Exit」を選択して、メインメニューに戻ります。

この時点で、サーバー H1 は ALONE 状態になります。
5. サーバー H2 (シリアル番号の末尾が「-H2」) の電源ボタンを押して、電源を入れます。
6. サーバー H2 の LCD ディスプレイの状態が「QUIET」になるまで待機します。
7. 手順 1 の指示に従って、サーバー H2 の IP アドレスとゲートウェイアドレスを割り当てます。

クラスタシステムの構成

次の手順に従って、Web Admin アプリケーションを使用してシステムを構成します。

1. 同じネットワーク上のクライアントで、Java Plug-In が組み込まれた Java プラットフォーム対応の Web ブラウザを開き、サーバー H1 の IP アドレスを入力します。

2. 「Applet Security Certificate」を受け取り、Web Admin アプレットがこのシステムに読み込まれるまで待機します。
3. Web Admin のログイン画面で「Apply」をクリックします。パスワードはあとで設定できます。
『Sun StorEdge 5310 NAS Appliance ソフトウェアのインストール・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください。
4. 「Configuration Wizard」ダイアログボックスのライセンス契約を読み、「Accept」をクリックします。
5. 「Welcome」ダイアログボックスで「Next」をクリックし、「Select Environment」画面に進みます。
6. ここで、Windows または Unix、あるいはその両方の環境を構成できます。構成情報はあとでいつでも追加できます。「Next」をクリックして続行します。
7. 「Set Server Name」画面でサーバー名を入力し、その他のフィールドに適宜値を入力してから、「Next」をクリックします。
8. 「Enable Failover」画面で「Enable Automatic Failover」および「Enable Link Failover」を選択してクリックし、自動フェイルオーバーおよびリンクフェイルオーバーを有効にします。
「Down Timeout」および「Restore Timeout」の両方のフィールドには、デフォルト値の「60」秒が割り当てられています。
9. サーバー H2 に対するパートナー構成名およびゲートウェイ IP アドレスを入力します。出荷時のデフォルト設定のパートナー名は「head2」です。
ここで入力する情報は、ハートビート接続を介してサーバー H2 を起動するために使用されます。パートナー名は、サーバー H2 に割り当てるホスト名です。DHCP を介してサーバー H2 が取得したネットワーク情報、または LCD パネルで手動で設定されたネットワーク情報がここで表示されるので、必要に応じて修正できます。
ハートビート接続のプライベート IP のフィールドは、すでに IP 10.10.10.2 プライベートネットワークに指定されていますが、変更しないでください。
10. 「Next」をクリックします。
11. 「Configure Network Adapters」画面で、情報が正しいかどうかを確認します。
この時点で、追加のネットワークインタフェースを構成できます。ただし、ブラウザが接続されているポートの構成を変更すると、ブラウザのセッションが切断されます。
12. 「Next」をクリックして続行します。
13. 「Set Gateway Address」画面でゲートウェイアドレスを入力し、「Next」をクリックして続行します。
14. ウィザードのその他のすべての構成手順の詳細は、『Sun StorEdge 5310 NAS Appliance ソフトウェアのインストール・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください。

注 – DNS サーバーを追加する場合は、「Add」をクリックして、DNS サーバーが追加されたことを確認します。

15. 追加した構成情報を確認します。

注 – 続行する前に、構成情報が正確であることを確認します。

16. 「Wizard Confirmation」画面で「Finish」をクリックします。
システムによって設定が構成され、「Save Configuration」画面に構成内容が示されます。また、フェイルオーバーの変更を有効にするために「both NAS Server Heads will Reboot」というメッセージが表示されます。

17. 「Save Configuration」画面で「Close」をクリックします。

注 – サーバー H1 は自動的に再起動しますが、サーバー H2 は手動で再起動する必要があります。

サーバー H2 を手動で再起動するには、次の手順に従います。

1. サーバー H2 の LCD モジュールで、メニューから「B. Shutdown Server」を選択します。
2. 「B. Reboot」を選択します。LCD に「Are you sure? No」と表示されます。上向き矢印を押して「yes」に変更します。次に、選択ボタン (右向き矢印) を押して再起動します。
数分後にサーバー H1 は ALONE 状態で起動し、サーバー H2 は QUIET 状態で起動します。LCD パネルを参照して、このような状態であるかを確認します。

LUN 所有権の割り当て

構成プロセスを終了するには、両方のサーバーに対して LUN 所有権を割り当てる必要があります。

1. ブラウザウィンドウを新規に起動し、サーバー H1 の IP アドレスを入力します。
2. Web Admin のログイン画面で「Apply」をクリックします。パスワードは必要ありません (パスワードはあとで設定できます。『Sun StorEdge 5310 NAS Appliance ソフトウェアのインストール・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください)。
3. 左側のナビゲーションパネルで、「Fault Tolerance」->「Recover」を選択し、「Recover」をクリックします。
ログウィンドウ (下部の区画) で回復プロセスの状態を確認します。
4. 「Restore Raid Configuration」ウィンドウで、サーバー H2 にいくつかの LUN を割り当てます。

注 – 各サーバーに、1 つ以上の LUN を割り当てる必要があります。ほとんどの場合、クラスタ内の各サーバーにほぼ同容量の記憶領域を割り当てます。

5. 「Apply」をクリックします。

注 – 適切に LUN を割り当てると、「(New) Restore Raid Configuration」ウィンドウおよび「Current RAID Configuration」ウィンドウで保存されます。

6. 「Recover」をクリックすると、LUN は 2 台のサーバーの間で分配されます。
この時点で、両方のサーバーが NORMAL 状態に変わります。

注 – 両方のサーバーが NORMAL 状態であることを確認します。LCD パネルの表示または Web Admin のメインページに、サーバーの状態が NORMAL と表示されます。

LUN パスの割り当て

各サーバーで LUN パスを割り当てて、各サーバーから各記憶装置コントローラへのマルチパスアクセスを均衡化するようにしてください。

1. ナビゲーションパネルで、「Fault Tolerance」>「Set LUN Path」を選択します。
2. LUN を選択し、「Edit」をクリックします。

3. 「Primary Path」 ドロップダウンリストから目的のコントローラを選択します。

LUN の割り当てを、2 つの使用可能なパスに均等に振り分けます。たとえば、1 つ目と 3 つ目の LUN を 1/0 に、2 つ目と 4 つ目の LUN を 1/1 に振り分けます。

4. 「Apply」をクリックします。

LUN の詳細、およびソフトウェアに関するその他の設定と使用方法の詳細は、『Sun StorEdge 5310 NAS Appliance ソフトウェアのインストール・設定・ユーザーマニュアル』を参照してください。

